

社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)レビューシート

団体名: 特定非営利活動法人音楽のまちづくり

訪問調査日: 2011年11月25日(金)

評価大項目(分類)	評価中項目	絶対評価コメント	達成率
I. 組織ミッション(社会的使命)と事業の推進	[1]組織ミッション(社会的使命)の確立	組織ミッションは定款をはじめ、ホームページ・パンフレット「音楽文化のインフラ整備事業」に明記されており、非営利組織としての位置付けが本活動パンフレットや決算状況からも確認できる。組織ミッションに基づいて、京丹後を中心としたコンサート活動が精力的に行われてる状況が確認できる。	12/24 達成率 50%
	[2]組織ミッションと事業の策定	中期的ヴィジョンはあるが、文章化する等明確には策定されていない。単年度事業計画は、演奏家を含む理事と相談・共有しながら一定程度整理され策定されている状況が伺えるが、本訪問調査時において明確に確認することはできなかった。	
II. 組織と経営管理	[1]意志決定機関とガバナンス	理事会は年に数回行われている状況が伺えるが、議案書や議事録の作成等が確認できず課題が多く見受けられる。東京にも理事がおり、運営上の役割分担が行われているが、組織図等により明確には示されていない。運営上必要となるコンプライアンスの把握・取組みとして、評価すべき取組みは見受けられない。経営状況は適切に把握されている状況が伺え、監事による内部監査が実施されている。	15/43 達成率 35%
	[2]適切な財務計画と執行・管理	経営計画書は策定されていない。寄付や事業収入、行政委託事業等財源が多様に確保されている。納税等適切な対応状況が確認できる。	
	[3]職員と労働環境	就業規則および給与規定等必要な規定の整備は確認できない。	
III. 事務局の執行体制と管理	[1]組織・事務局体制の確立	理事長宅を事務所として事務所機能は明確に確認でき、決められた時間帯や予約により来所対応が可能になっている。事業の性質上夏場の業務体制が敷かれている。登記事項の更新・保管は確認できるが、組織として必要な手続きに課題が見受けられる。	14/31 達成率 45%
	[2]会計全般	経理に関する管理規定は策定されていないが、慣例的なルールに沿って適切に処理が行われている。経理に関する相談等は地域の商工会の協力を得ている。	
	[3]事業を推進するための体制やルール	計画された事業がほぼ執行されている。各事業終了後の反省会・評価の取組み状況が伺える。また、コンサートCD等も作成し、事業終了後の成果物の作成状況も確認できる。	
IV. 社会資源の活用	[1]社会資源(企業/行政/市民など)の連携と活用	会員がコンサート受付け等にボランティアとして参加している。地球デザインスクール等地域のNPOとの協働事例が確認できる。コンサートは、学校等教育機関からのオファーも多く見受けられ、現在、京都府から緊急雇用対策事業の委託を受けて活動している。	13/16 達成率 81%
V. 情報の公開と社会的信頼	[1]情報の公開	組織・事業情報はホームページで公開されており、地域の郷土史にも紹介されている。フロー情報もホームページで随時更新されている。「音楽のまちづくりだより」を発行している。	15/18 達成率 83%
	[2]第三者による評価	活動冊子が宮津市史に登録されている他、複数の新聞に活動が紹介されている。	
VI. 組織のリスクマネジメントと社会的責任の追求	[1]組織のリスクマネジメント	書類やデータの保管、管理について規定等は確認できないが、管理は適切に行われている。演奏活動にかかるリスク対応については課題が多く見受けられる。	6/18 達成率 33%
	[2]組織の社会的責任の追求	過疎地域に対する文化振興という考え方が表明されている。組織活動として環境の持続性に配慮した取組みが確認できる。その成果確認・評価に関しては取組みが望まれる。	
【相対評価(セルフレビュー)／総括コメント】 当法人は、京都府北部に位置する丹後半島にあり、都会から離れているために芸術鑑賞に恵まれない分地域の人々の良質な音楽への渴望は一入強く、音楽普及の必要性が高いという地域課題を踏まえて、平成18年9月にNPO法人として設立しました。 平成21年に「京都府緊急雇用対策事業」の委託を受け、また、タナカ・ヴァイオリン・ミュージアムを開館し活動拠点として、丹後一帯における音楽普及活動を行っています。また、平成22年度には、公益財団法人京都地域創造基金の「事業指定プログラム」の採択を受け、寄附を募りながら活動を広げています。 音楽事業をもっとも必要としているのは教育分野だという認識のもと、音楽事業の社会教育・学校教育における活用法を模索する中で、「学校訪問コンサート」「図書館読み聞かせコンサート」「公民館等での一般コンサート及び楽器体験ワークショップ」「楽器を含む音楽資料の講習会」等の活動を推進しています。また、音楽の単独ではなく、異業種・異分野とのコラボレーションにより発展的な音楽活動を行うことで、地域や時代のニーズを満たし、地域の問題を解決していきたいと考えています。 子どもたちから「ほんもの」に触れてもらうことで、若手の人材育成につなげ、人材育成による音楽文化の定着と振興に寄与する活動を続けていきます。 本法人は、過疎地における音楽振興活動を使命とした事業展開や若手の人材育成に向けた教育活動が熱心に取り組まれています。理事長の田中氏は、京丹後の地で、ヴァイオリン製造をされていた父親の遺志を引き継ぎ、理事長として法人設立後、自宅を「タナカ・ヴァイオリン・ミュージアム」として開設し、コンサート御活動等幅広く音楽文化振興事業を展開されています。事業展開や成果に対しては高く評価できるものと考えますが、組織運営・法人運営としての整備状況には多くの課題が見受けられます。一つひとつ組織的な課題を明確にし取り組まることが望まれますが、組織的な信頼性は一定程度担保できているのものと判断し、本社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)において認証しました。			75/150 総合達成率 50%